

岡山倉敷都市圏におけるMM施策「GOOD ROUTE」の取組紹介

国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 計画課 非会員 ○中下 千太郎
 国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 計画課 非会員 堀口 和希
 岡山大学学術研究院環境生命科学学域 正会員 氏原 岳人
 日本工営株式会社 正会員 山口 晋弘

1. 目的

岡山倉敷都市圏では、街中の渋滞対策として、スマート通勤おかやま（朝夕ピーク時の通勤手段をクルマから公共交通等へ転換を促す施策や時差出勤の呼びかけ等）のモビリティ・マネジメント（以下、MM）施策を推進しており、一定の効果を上げている。

しかし、各取組自体の認知度は低く、今後、より多くの方に知っていただき、MM 施策の効果を高めるために、単体の情報発信だけでなく、総合的な情報発信を継続的に行っていく必要がある。

そこで、2019 年度より、岡山倉敷都市圏の MM 施策を統一的に周知していくために MM 施策の総称として「GOOD ROUTE」を作成し、総合的な情報発信を可能とした。また、2020 年度以降、「GOOD ROUTE プロジェクト」として、既存の MM 施策を中心に、継続的な情報発信を行っている。

本稿では、「GOOD ROUTE」のこれまでの取組内容と今後の展望を紹介する。

2. 岡山倉敷都市圏の現状・既存のMM施策の取り組み紹介と課題

(1) 岡山倉敷都市圏の現状

岡山都市圏を中心とした通勤手段を見ると、クルマ（自家用車）への依存度が高く（図-1、図-2）、特に、岡山倉敷都市圏（岡山市～倉敷市）において、国道2号をはじめとした東西方向の通行に慢性的な渋滞が発生している。

岡山国道事務所では、渋滞対策として、現道拡幅やバイパス整備等のハード整備（近年では2020年3月に国道2号倉敷立体が開通）を推進しているが、整備完了までに長期間を要することになり、ハード整備だけでなく、短期間で効果が得られるソフト施策（以下、MM 施策）との両輪での取り組みが必要となる。

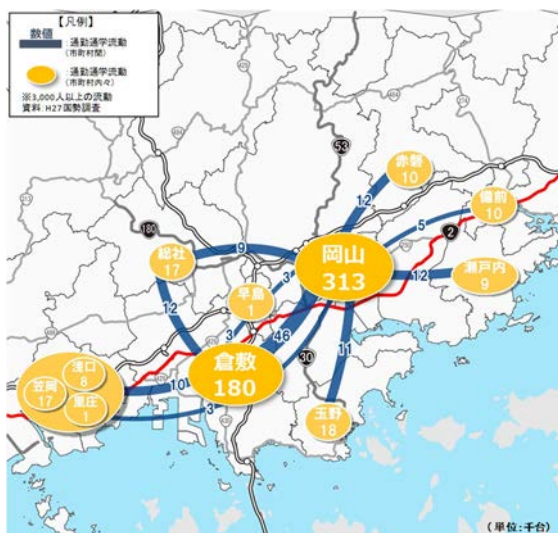


図-1 市町村別の通勤・通学流動（2015年国勢調査）

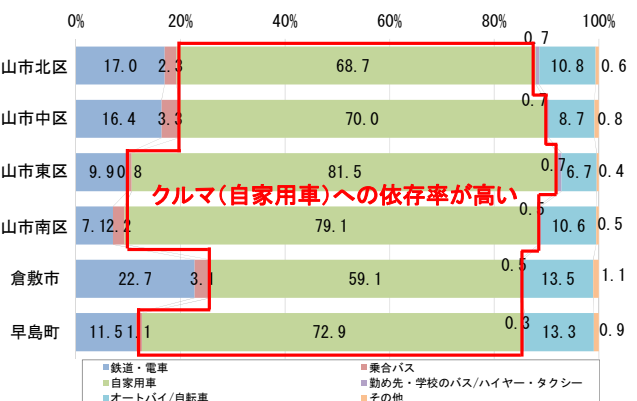


図-2 通勤・通学利用の交通手段割合（2010年国勢調査）

キーワード 渋滞緩和，モビリティ・マネジメント，周知活動，スマート通勤，GOOD ROUTE

連絡先 〒700-8539 岡山県岡山市北区富町2丁目19-12 岡山国道事務所 計画課

TEL 086-214-2310

(2) 既存の MM 施策の取組紹介

岡山国道事務所では、岡山倉敷都市圏における関係自治体と連携した MM 施策を実施しており、主な取組として「スマート通勤おかやま」がある。

「スマート通勤おかやま」とは、渋滞緩和や CO2 排出量の削減等、クルマに頼らないまちづくりを目指し、岡山県下の事業所に呼びかけ、一斉に徒歩や自転車、公共交通の利用や車利用の工夫(時差出勤、経路変更等)による通勤を行う取組であり、2007 年以降、毎年秋季に1~2 週間程度の期間を設定して実施している。周知活動では、関係機関や自治体と連携し、バスマスクやももちり等の代替となる交通手段を媒体とした周知や駅構内のデジタルサイネージを活用した周知を実施しており、2022 年度では、124 社の事業所で 5,484 人の参加を頂いており、スマート通勤おかやまに協力頂いた事業所の中から特筆した取組を行った事業所には、市長等による表彰状の授与を行っている。

(3) 既存の MM 施策の課題

前項で紹介した以外にも、倉敷美観地区における観光地の渋滞対策等、岡山倉敷都市圏では、様々な MM 施策が実施されているが、一方で、マイカー利用者への周知の視点において、課題が残っている。

岡山倉敷都市圏に在住で、通勤時に国道 2 号を利用するクルマ利用者(400 名)への WEB アンケート調査(2019 年 11 月実施)の結果より、回答者の約 7 割がスマート通勤おかやまの取組を「知らない」と回答しており(図-3)、マイカー利用者への周知の面で課題が残っている。一方、スマート通勤おかやま、「知らない/初めて見た」の回答者においても、「参加してみよう/実施してみよう」という意向をもつ回答者がいる程度いることがわかり(図-4)、より多くの方々に「参加/実施」して頂くためにも、MM 施策の適切な周知活動を実施する必要がある。

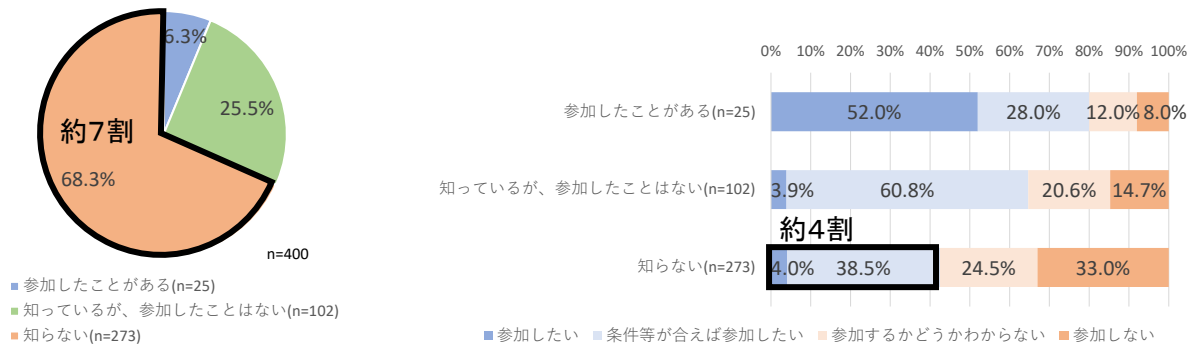


図-3 取組の認知度 (スマート通勤おかやま) 図-4 認知度別の参加意向 (スマート通勤おかやま)

(4) MM 施策の総称「GOOD ROUTE」の設定

前章の課題を踏まえ、岡山倉敷都市圏における MM 施策を統合的、かつ継続的に周知していくための施策検討を 2019 年度より実施しており、2019 年度では、MM 施策のブランディング化を目指し、「思考する移動」をコンセプトとした MM 施策の総称として「GOOD ROUTE」を作成した(図-5)。

「GOOD ROUTE」では、「思考する移動」をコンセプトとし、個々人にとって、良い移動を考えてもらう(または発見してもらう)ための“きっかけ”を提供することを目指している。毎日の移動における「時間」「手段」「経路」を一人ひとりに考えていただけるような標語として、「時と道と手段。ルートは1つじゃない。」を設定している。



図-5 総称「GOOD ROUTE (グッドルート)」

3. これまでの「GOOD ROUTE」の取組

「GOOD ROUTE」では、岡山倉敷都市圏のMM施策を統合的、かつ継続的に周知していくために、プロジェクト活動とともにプロモーション活動を実施している。以下、2020年度以降の取組を紹介する。

(1) プロモーション活動

「GOOD ROUTE」を活用し、統合的な情報発信を行うためのホームページ(図-7:左)を2020年度に作成し、運用している。2021年度では、「朝活」を推進させるための「朝活スタイル」のプロモーションムービーの作成や民間企業へのインタビュー動画(図-7:中央)を作成し、ホームページより公開している。また、国道沿いの横断幕の設置(図-7:右)やポスター設置及び駅構内のデジタルサイネージからのプロモーションを行った。また、毎週月曜日の通勤時間帯に、ラジオ放送「おかこく presents GOOD ROUTE NAVI」に出演し、国道2号を中心とした渋滞緩和に向けた取組への情報提供を行った。

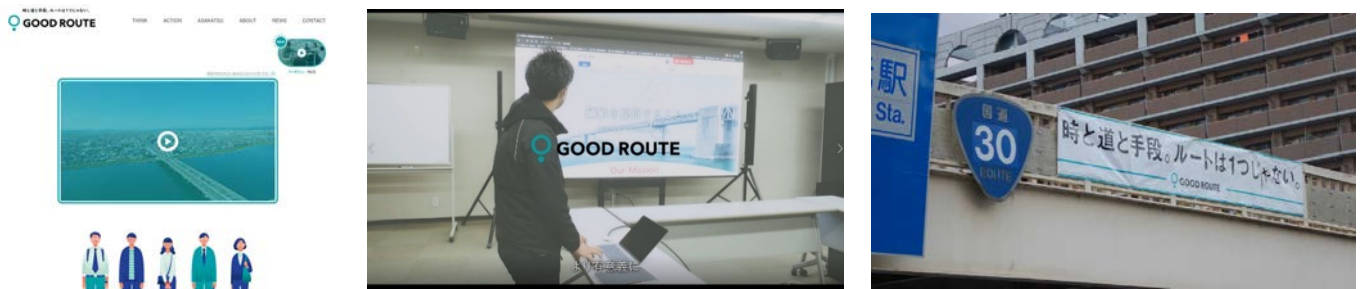


図-7 プロモーション活動(左:ホームページ, 中央:インタビュー動画, 右:横断幕)

(2) プロジェクト活動

プロジェクト活動は、渋滞緩和や環境改善に貢献できる取組(プロジェクト)を紹介し、自分にあった新しい通勤・通学を考えてもらう“きっかけ”をつくることをコンセプトとしている。

前章で紹介した「スマート通勤おかやま」をプロジェクトとして紹介・推進するだけでなく、高速道路の有効活用やコロナ禍による渋滞緩和効果をプロジェクトとしてホームページより紹介している。

2021年度以降、朝活に着目した取組「朝活スタイル」や観光地における渋滞対策として倉敷美観地区での駐車場満空情報の提供や最上稲荷での公共交通利用の呼びかけによる交通分散を図った取組を実施している。

a) 朝活スタイル

朝活とは、「朝の時間を利用して、普段できない活動をしよう!」という取組であり、朝活スタイルとは、朝活に賛同する方々に「新しい通勤・通学方法」を提案し、楽しく(お得に)朝の渋滞緩和や環境改善につながる“きっかけ”を提供する取組である。2021年度では、朝活スタイルとして、民間の飲食店、交通事業者と連携した時差出勤を呼び掛ける取組や、朝のクラブ活動の実施による効果を把握するため、ノルディックウォーク教室と写真教室を試行として実施した。また、2022年度では、2021年度の取組結果を踏まえ、「多くの方がいつでもどこでも自由に参加できるような仕組みづくり」として、朝活が実施できる店舗・施設を一覧にして、GOOD ROUTE ホームページから公開している。

b) 観光地における渋滞対策(倉敷美観地区)

倉敷市にある倉敷美観地区の周辺では、GWや秋の観光時期にクルマ利用の観光者が集中し、駐車場待ちによる渋滞が発生している。そのため、空いている駐車場への分散や道路の混雑状況を把握するため、カーナビでの駐車場満空情報の提供やAIカメラによる所要時間の算出を実施した。カーナビからの情報発信は、一般社団法人道路交通情報通信システムセンター(VICSセンター)と調整し情報発信を実施した。また、AIカメラによる所要時間は、2点間を通過するクルマのナンバープレート(NP)を読み取ることで通過時間として算出を行った。実施した結果、現地でのアンケート調査より、約6割が移動中に道路混雑情報を収集しており、そのうち約2割が行動変容を実施していた(図-8)。また、カーナビで情報収集した方のうち、約6割が満空の表示を見ており、他の駐車場が空いていれば利用したいという方も半数程度見られた(図-9)。

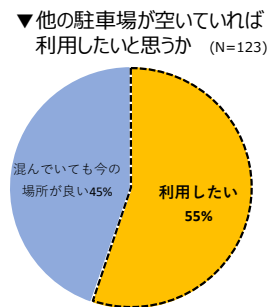
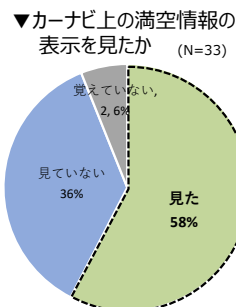
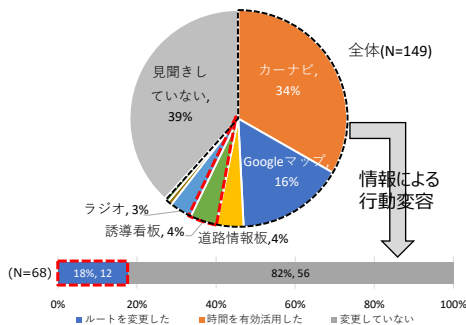


図-8 移動中の道路混雑情報の収集・行動変容の有無 図-9 カーナビの満空情報の視認 (左), 駐車場の利用有無 (右)

c) 観光地における渋滞対策 (最上稲荷)

岡山市北区にある最上稲荷では、例年正月の三が日を中心に、参拝客のクルマが集中し、国道 180 号をはじめとする周辺道路での渋滞が発生している。そのため、交通集中と渋滞の緩和を目的に「公共交通で初詣」と題した公共交通機関を利用した初詣の呼びかけを実施した。呼びかけの結果、「公共交通で初詣」の認知度は約 2 割程度であったが、知っている方の約 6 割が「来訪手段選択のきっかけになった」との回答を得た。

4. 「GOOD ROUTE」の取組の効果検証

2021 年度の「GOOD ROUTE」の取組効果を把握するために、岡山県内在住かつクルマで主要道路 (国道 2 号, 30 号, 53 号, 180 号) を利用している方を対象とした WEB アンケート調査を実施した。「GOOD ROUTE」の認知度は、2020 年度当初の 9% から徐々に上昇し、2022 年度では約 18% となっている (図-10)。また、認知経路として、プロモーション活動で実施した横断幕による効果が高い結果となった。

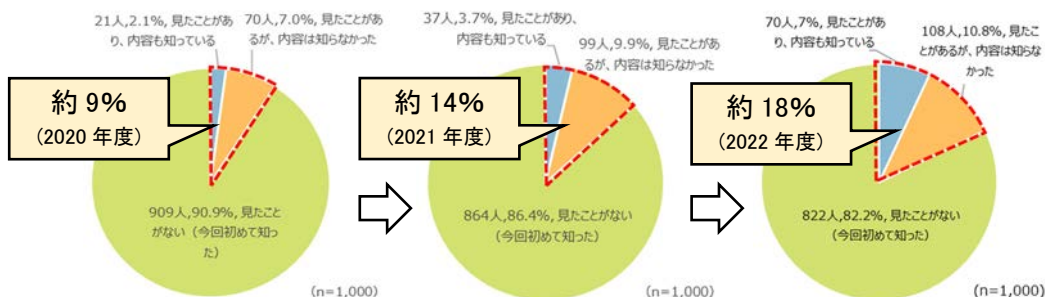


図-10 「GOOD ROUTE」の認知度の推移

5. 今後の展望

MM 施策の総称「GOOD ROUTE」の取組として、2019 年度に総称の作成、2020 年度より認知度向上のプロモーション活動、各種プロジェクト活動等を 3 カ年実施しており、徐々に浸透しつつある。今後は、岡山倉敷都市圏の渋滞課題となっている国道 2 号岡山倉敷立体 (岡山市古新田～倉敷市新田) の事業開始に向け、MM 施策である「GOOD ROUTE」の更なる認知度向上を目指す。

また、2021 年度、2022 年度に、岡山倉敷都市圏にある民間企業 (従業員) へのアンケート調査を実施しており、実施結果より、「時差出勤」、「在宅勤務」、「高速道路の利用」への協力意向は高いが、課題として企業の就業規則等により認められていないため協力が難しい方も多数存在することが把握できた。

今後は、2022 年度までの取組で得た課題 (朝活スタイルの推進、国道 2 号岡山倉敷立体の事業開始に向けた民間企業への呼びかけ) を踏まえ、地域に根付いたプロモーション活動、時差出勤や経路変更の“行動”につながる新たな取組を実施し、「GOOD ROUTE」の更なる地域浸透や「思考する移動」の体現を目指す。

参考文献

- ・公益社団法人土木学会：「モビリティ・マネジメントの手引き」
- ・「GOOD ROUTE」：<https://goodroute.jp/>
- ・「スマート通勤おかやま」：<https://www.cgr.mlit.go.jp/okakoku/mm/>